

大気環境濃度の推移と規制の時期との関係性の推移

大気環境濃度の経年推移と自動車排出ガスの規制との関係性を整理する。

ここでは、都市圏別（首都圏、愛知・三重圏、大阪・兵庫圏）及び全国（8都府県以外）の自排局の NO_2 年平均值、 NO_x 年平均值、SPM 年平均值を指標として、平成 13 年度に対する各年度の年平均值の濃度差と自動車排出ガスの規制との関係を示す。

NO_x 年平均值（図 1）は、全国（8 都府県以外）よりも各都市圏の方が平成 13 年度に対して大きく濃度が低下している。

NO_2 年平均值（図 2）は、大阪・兵庫圏では全国（8 都府県以外）と同程度に低下しており、首都圏及び愛知・三重圏においては全国（8 都府県以外）より大きく低下している。

SPM 年平均值（図 3）は、各都市圏において全国（8 都府県以外）より大きく低下している。特に首都圏は、ディーゼル運行規制（平成 15 年度、②の矢印の位置）及び規制の強化（平成 18 年度、④の矢印の位置）が実施された時期に濃度が大きく低下している。

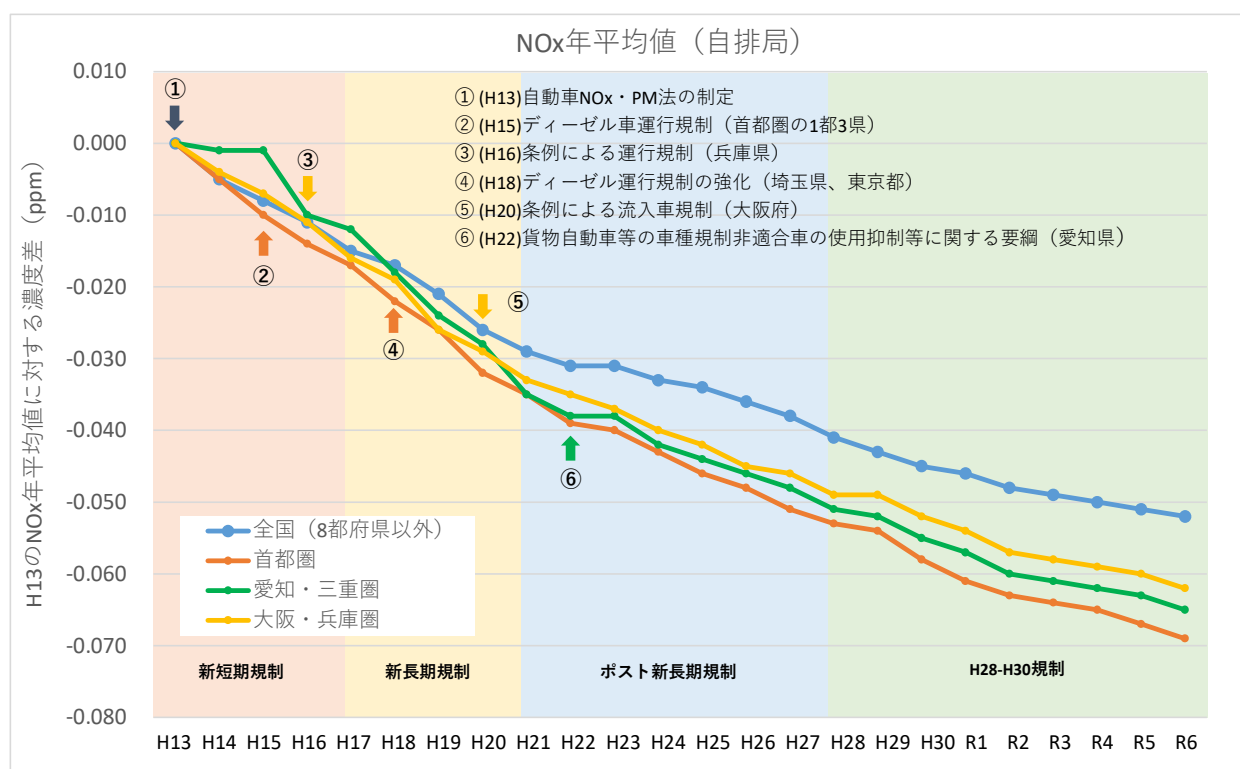


図 1 平成 13 年度の NO_x 年平均值に対する濃度差

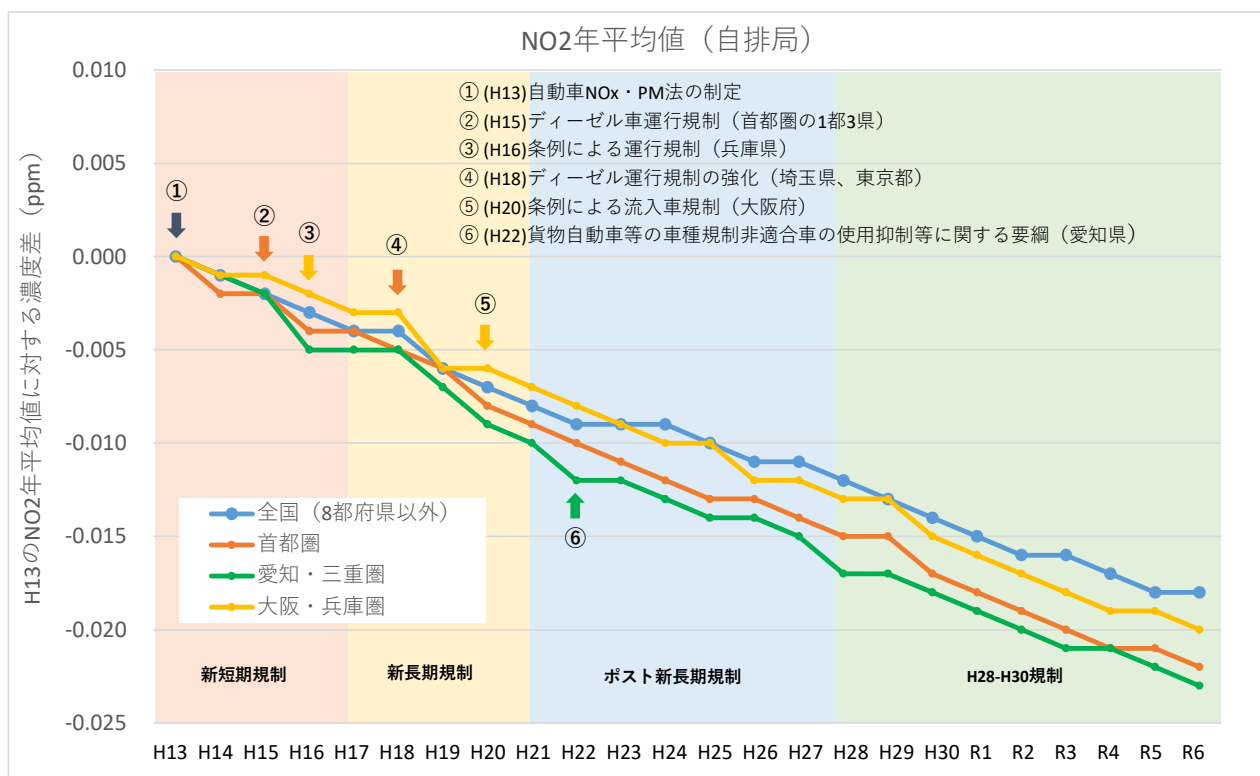


図2 平成13年度のNO₂年平均值に対する濃度差

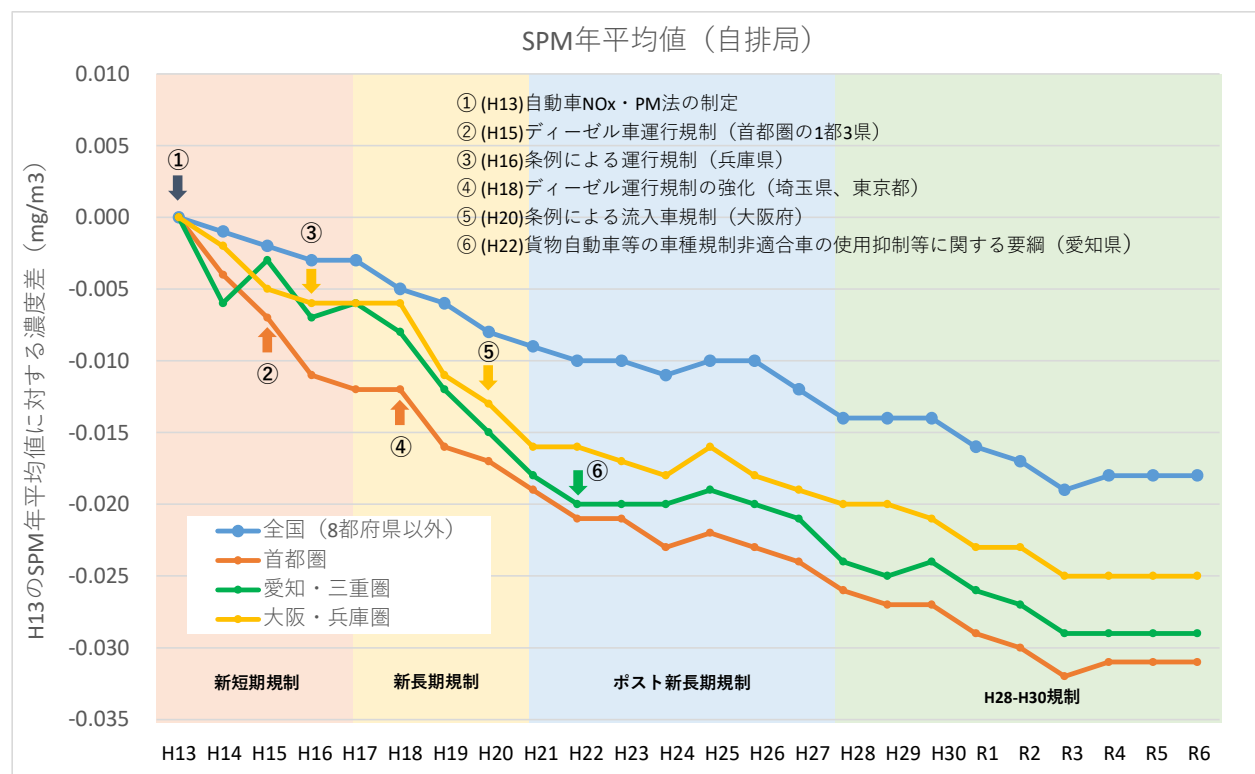
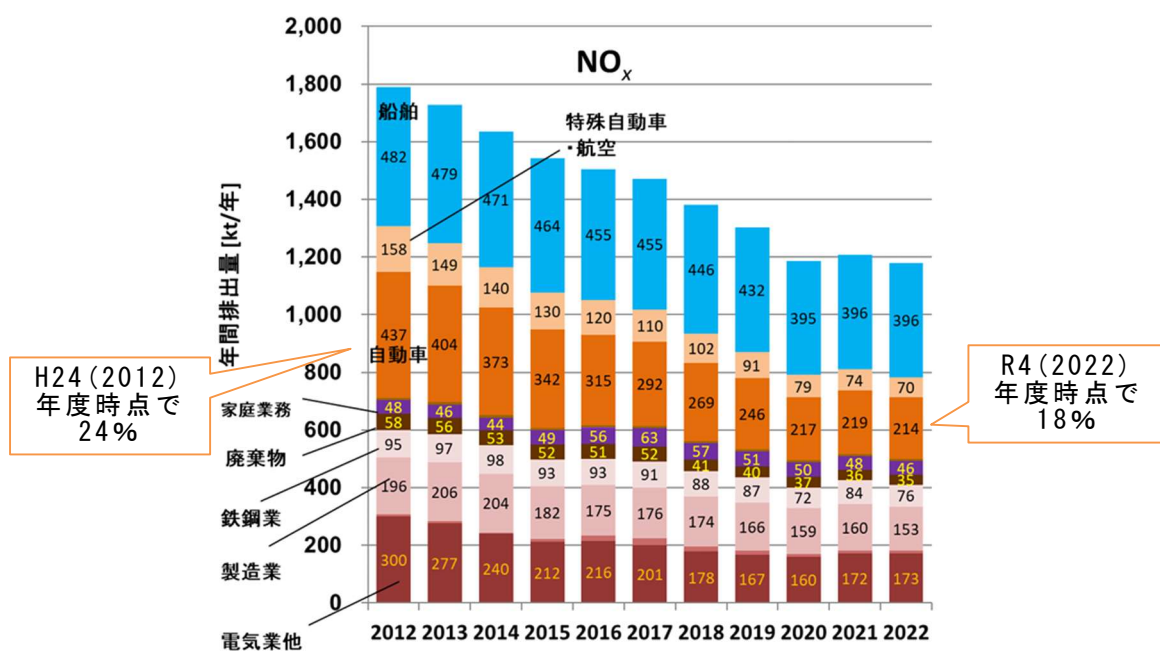


図3 平成13年度のSPM年平均值に対する濃度差

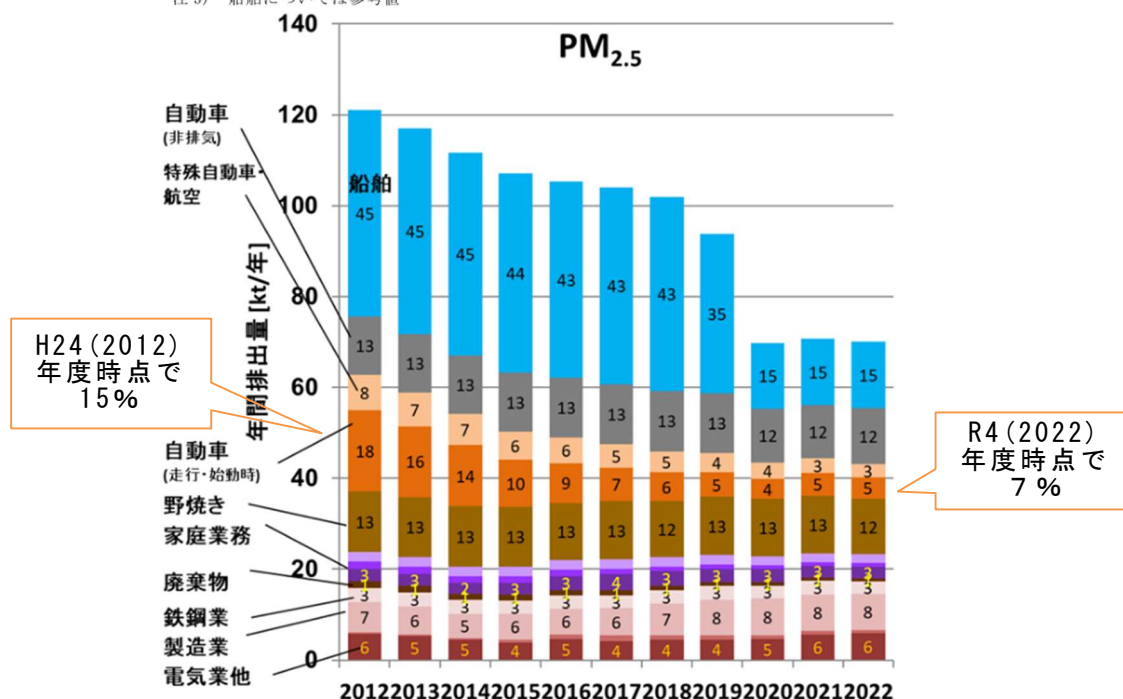
国内の大気汚染物質の排出インベントリ（図4）を見ると、全排出量（船舶含む）に対する自動車からの排出量の割合は直近の約10年でNO_x、PM_{2.5}ともに減少している。



注1) 排出量寄与の小さい発生源は表記を省略

注2) 特殊自動車はR6年度「原単位調査」結果を引用

注3) 船舶については参考値



注1) 排出量寄与の小さい発生源は表記を省略

注2) 特殊自動車はR6年度「原単位調査」結果を引用

注3) 船舶については参考値

図4 2012～2022年度における全国の総排出量算定結果

(出典：PM_{2.5}等大気汚染物質排出インベントリ（環境省）より作成)